

Tokyo Dental College Alumni Association

同窓会 案内

2026

東京歯科大学同窓会



同窓会は新進会員の皆様を応援していきます。



東京歯科大学同窓会
会長 富山 雅史

長年にわたる学習や研修の成果が実り、いよいよ希望に満ちた歯科医師としての生活が始まります。明治28年に本学の建学者である血脇守之助先生は、歯科医師は生涯を通じて歯科医学と医療技術の研鑽を行うと述べており、共に学んだ同窓が助け合い、連携して、各地域の方々の健康の担い手として、社会に多大な貢献をしています。

皆様は卒業と同時に全員の方が同窓会の会員となります。さらに、卒業後5年目までは同窓会の新進会員となります。同窓会は新進会員の皆様が、素晴らしい歯科医師人生を歩むために、全面的な支援をしています。

新進会員が誰でも参加できる、若手支援のための症例検討会などを、同窓会において毎月開催しています。また、若手の会員のための卒業研修セミナーや、より高度な臨床セミナーも開催しています。より同窓会のホームページなどを通じて、新進会員の方の各種相談などにも対応しています。

皆様にはご自分自身で同窓会や歯科医師会などに積極的に参加され、日本の歯科医療を、さらに発展、充実させることを期待しています。



東京歯科大学ご卒業、おめでとうございます。
すべての卒業生は、新たに全員東京歯科大学同窓会員となりました。
これまで、歯科医師になるため、国家試験合格を目標としてきた君たちですが
これからは、良い歯科医師そして良き社会人になることを目的にしなければなりません。
良い歯科医師は、なんとなく想像がつくかもしれませんが、
「良き社会人」のイメージは持っていますか？
私たちも同じ気持ちで卒業しました。
そして、そこから一歩ずつ歩んできました。
社会人として
恋愛、結婚、家づくり、出産、子育て、趣味、生きがい、介護、近親者の死、
子孫の繁栄そして老い
歯科医師としても
研修医、研究、教育、学位取得、就職、開業、卒業研修、そして社会貢献
良いことばかりではなく、常に悩みは尽きません。
収入、資金繰り、技術、患者さんやスタッフとのコミュニケーション、健康保険、自費診療、診療トラブル、
医療訴訟、税金、労務関係 etc.
それらを、1つずつ解決しながらも改めて「東京歯科大学卒業生」で良かったと感じる日が必ずやってきます。
それは、真摯に誠実に社会に向かってきた多くの先輩方が築き上げてきた信用
そして、血脇先生が標榜した「家族主義」に基づくものなのです。
想像の中の10年後、20年後。
必ず先輩方の経験が様々な形であなた方へ伝承されていきます。

さて、歯科大学の同窓会って何でしょうか。
これまでの学校同窓会とは大きく役割が違います。
仲間との絆を絶やさない目的ではありません。
「歯科」という分野において歯科医師として業界を支えあう同志という位置づけ。
そして、国民に最適で良質な歯科医療を提供するための社会的組織でもあるのです。
古くは歯科医師国家資格の制定から、近年頻発する自然災害やこのコロナ禍においても、しっかりと日本の
歯科社会を支えてきたのは、個人ではありません。目的を持った団体なのです。現代日本社会は責任の所在
を明らかにするため必ず裏付けを求めます。何の表札や看板もない個人では地域医療や社会への貢献は
とても難しいのです。
そしてその歯科社会を過去もそして現在も牽引リードしているのは紛れもなく東京歯科大学同窓会なのです。
遠くにあると思えた歯科界そして歯科行政も、実は東京歯科大学同窓会であれば身近な存在になります。
私たちは君たちへの最初のメッセージとして、共に130年余りの歴史と伝統を育み、母校後輩たちに
しっかりと継承していくことを強くお願いしたいと思っています。
新たなご入会、心から歓迎いたします。
東京歯科大学同窓会 副会長 小枝義典 (S59 卒)



新進会員って？

Q. 同窓会って何をしているの？

私たちの同窓会は、1895年(明治28年)6月「高山歯科医学院院友会」という名称で設立しました。単に同窓生が集まり親睦を深めるだけでなく、研究機関としての役割を期待し発行された機関誌は、現在の「歯科学報」に継承されています。



機関誌と歯科学報



初代会頭 高山紀齋先生 第2代会頭 血脇守之助先生

専門学校時代経て、戦争を乗り越え1946年(昭和21年)11月現在の東京歯科大学同窓会になりました。

同窓会の事務局は水道橋校舎別棟にあり、会員の先生方や支部の現情報の整理、各種会議の準備など様々な事務処理を行っています。

近年の大きな災害に対して、被災地へ支援金をお送りしたり、新型コロナウイルス感染症対策の情報提供や「特別支部助成金」という形で各支部へ納入会費の15%を支給、準会員へも同様に助成(200万円)をおこないました。

また、同窓会には7つの委員会があり、担当役員と委員が事業を行っています。(同窓会報の作製、学術セミナー、多方面で活躍する人材育成、ゴルフ大会等々)

Q. 同窓会ってどうやって入る？

本学を卒業すると自動的に同窓会に入会します。入会手続き不要。
退会規定はありませんから、生涯同窓会会員です。

Q. 同窓会の会費は？

年会費

・準会員	本学在学中	会費なし
・正会員	本学卒業後5年目までの新進会員	10,000円
	本学卒業後6年目～10年目の若手の会員 ^(※)	10,000円
	本学卒業後11年目～50年目の会員	20,000円
	本学卒業後51年目以降は会費免除	

会費は各種事業を行うための事業費、同窓会会員への支援、大学への支援、事務局の維持費などに使われています。

^(※)若手の会員には、他校出身で東京歯科大学大学院修了後1～5年目も含まれます。

Q. どんな支援？新進会員であるメリットは？

A. 世代・地域を超えた同窓の交流など以下のような多くの支援を行っています。

新進会員のつどいは無料で参加できます。



2025年 新進会員のつどい実行委員会委員

東京歯科大学同窓会主催の各種セミナー、講演会等は、無料もしくは割引料金で受講できます。

他大学同窓会主催のセミナー等にも無料で受講できるものがあります。

支部、地域支部で開催される学術講演会、保険講習会に参加できます。

皆さんの生の声を支部長を通して本部に伝えることができます。

80歳、100歳を迎えられるとお祝い金が贈呈されます。

また、死亡時には弔慰金が支払われます(会費未納者には支払われません)。

年4回発行の会報で、同窓会、クラス会、大学の情報がわかります。

同窓会ホームページのメールBOXから質問、相談ができます。





講座新入医局員と一緒に（本人：前列左から2番目）

Q. 今の職場を選んだ理由は？

私は現在、東京歯科大学歯周病学講座に所属しております。研修医の時には進路に悩み、様々なクリニックを見学しました。インプラント治療や自費診療を積極的に行っているクリニックでは、大学病院では見ることができなかった機材や技術を見学することができました。大変勉強になりましたが、現在、自分が思い描く診療スタイルとは違うことを感じました。治療をする上で1番の土台となるであろう歯周組織の状態をコントロールできるようにしたいと強く思い、本講座への入局を選択しました。

入局するにあたり、大学院生または専修科生の2つの選択肢がありました。研究を通して、組織再生における細胞の様子やメカニズムを学ぶことで、臨床の現場での視点も広がり、さらに楽しく歯科医師人生を過ごせるのではないかと考え、大学院進学を選択しました。

本講座の大学院は、研究だけでなく臨床の現場にも積極的に立ちます。2本の柱があるのは大変だとは思いますが、臨床も大切だと感じている私にとってはとても魅力的でした。また、海外での学会にも積極的に参加しており、日本だけにとどまらず、世界各国の歯科医師や研究者と交流できるのは刺激的な環境かと思えます。5年次の登院実習の時から、本学の保存科に残ることは希望していたのですが、研修医期間中、自分が思っていたよりも進路に悩んでしまい、なかなか決断することができませんでした。そんな中、進路相談に乗ってくださった今村准教授に感謝いたします。今年度本講座には、大学院生4人、専修科生2人、計6人が入局しました。新しい環境で、覚えることも多く大変だと感じることもありますが、先輩方や同期に恵まれ、日々楽しく過ごしております。同期とは、1人も欠けることなく認定医取得を当面の第一目標として、皆で切磋琢磨していこうと話しております。研究については、右も左も分からず、正直不安もありますが、それ以上に今までやったことがないことにチャレンジするという楽しさも感じております。今現在は、研究テーマが決まっておらず、研究における基本手技を先輩方からご指導いただいております。このような環境で日々学べることを当たり前と思わず、1日1日を大切に過ごしていきたいです。

先輩から卒業生の皆さんへ...

徳丸 詩織

129期生・令和6年卒

東京歯科大学卒業後、
東京歯科大学水道橋病院で研修修了
現在、歯周病学講座在籍

Q. 後輩たちに伝えたいことは？

学生時代も感じてはいましたが、卒後改めて本学の国家試験に特化した教育プログラムは素晴らしいと感じています。毎回の授業をしっかりと聞き、分からなかった部分は先生または先輩、同期に早めに聞いて解決するようにしましょう。当たり前のことですが、面倒に思ったり、分からないことを質問することに対して恥ずかしいという気持ちがあると、なかなかできません。プライドと恥を捨てて、聞いてみるのが大切かと思えます。友達と問題について討論すると、自分とは違う考え方を知ることができたり、自分の勘違いに気付けることもあります。勉強する時間は演習を中心に、友達と一緒に勉強する時間は分からないところの解決にあてるなど、メリハリをつけて勉強すると効果的かと思えます。国家試験合格後、様々な進路があり悩むこともあるでしょう。どの進路を選ぶかは、人それぞれ違いますし、正解も不正解もないと思います。自分の選んだ進路に自信を持って、その環境下で精一杯努力を重ねることが大切かと思えます。頑張ってください。

先輩から卒業生の皆さんへ...

松本 慶

129期生・令和6年卒

東京歯科大学卒業後、
東京歯科大学市川総合病院で研修修了
現在、口腔腫瘍外科学講座在籍

Q. 今の職場を選んだ理由は？

私は市川総合病院で臨床研修を終え、そのまま同病院を拠点とする口腔腫瘍外科学講座に大学院生として入局しました。学生のころから総合病院での歯科医師の役割に興味を持ち、登院実習プログレス期間も市川総合病院を選択しました。市川総合病院の歯科医師は「歯科・口腔外科」で診療に従事しています。たくさんの口腔外科医が所属していますが、自分が思い描いた口腔外科医とは違うものでした。自分が思い描いた口腔外科医は簡単に言えば手術をする歯科医師といったイメージでした。もちろん手術件数も多くあり、手術症例もたくさん経験させていただいております。しかし先生方は多種多様なサブスペシャリティを持ち、幅広い専門性に優れています。自分にとってはそれがすごく刺激的であると同時に学びが多くある施設だと考えております。自分のやりたいことや興味があることを見つけるとつい盲目的になってしまいがちですが、市川総合病院ではまた違った視点からのご指摘やアドバイスを頂くことができます。様々な専門性を持った歯科医師が協力し合いながら診療に従事する姿が、何らかの分野の専門家を目指すきっかけになりました。

Q. 今チャレンジしていることは？

研修医の1年間を振り返るととてもあっという間でした。その中で自分に回ってくるチャンスは多くありません。その時はそれがチャンスとは思わずに、「やったことがないから不安だな」とか「今日は疲れたからまた今度にしよう」などいつの間にか逃していることがよくあります。そしてその逃してしまった経験が生かされるときにチャンスだったと気づくものだと感じています。そのため、与えられるものはすべてチャンスだと思って頑張る努力をしています。具体的には少し朝早く出勤して、病棟患者のカルテチェックや静脈路確保を頑張っています。研修医の時にはできていなかったこの習慣が今思えばとてももったいなかったと感じています。これからも目の前のチャンスをものにできるようにひたむきに頑張っていきたいと思えます。



研修最終日同期といっしょに（本人：後列左から2番目）

Q. 学生時代にやっておけばよかったこと、後輩に伝えたいことは？

学生時代は国家試験に向けて膨大な知識量を頭に詰め込む日々でした。今思えば、もっとシンプルに考えられたことや実際に目の当たりにすることで簡単にイメージできるものもあったかと思えます。研修医の1年間で様々な症例を目の当たりにすることでより理解が深まった出来事がたくさんありました。そして今ではインターネットやSNSなどで簡単に視覚的に学ぶこともできます。あまりアカデミックな方法ではないかもしれませんが、勉強の一助になるはずで、どうしても試験が近づくと語呂合わせなどに頼って詰め込む作業になってしまうかと思えますが、そんな時は休憩がてら理解に苦しんでいる範囲の動画をぼーっと見てみるのも頭の中が整理される良いきっかけになるかもしれません。

学生時代は勉強だけでなく、部活動にも励んだ毎日でした。胸を張って言うことではないですが、6年生の夏まではデンタルのために野球に打ち込む毎日でした。はじめは同級生のみながら勉強している中で、肌が真っ黒になりながら野球をやっている不安もありました。ただデンタルに出るために4年生まで勉強を頑張れたことや、5年生の登院実習や6年生の総合講義の気分転換になったことは間違いなく、部活動を頑張っていたよかったと強く思います。さらに歯科医師になった今も部活動のOBやOGの先生は、後輩である自分たちのことを気に掛けてくださいます。歯科医師1年目の自分たちからするととても心強いことです。もし部活動を続けるかや入部するかを迷っている学生がいれば是非おすすめしたいと思います。

最後に

今はまず進級や卒業、そして国家試験合格のことで頭がいっぱいだと思います。進路のことなど後回しになってしまっても仕方ありません。ただ歯科医師になった自分を想像して、どんな自分をイメージしたときに心が躍るかを考えてみてください。具体的な進路などは後回しでしたが、私は口腔外科医を志していたのでただ口腔外科医になった自分を妄想していました。しかしそれが原動力になっていたことは間違いありません。そして今も指導医の先生や先輩方への憧れを原動力に頑張っている日々です。皆さんも自分になりたい歯科医師像や目標とする先生、またそんな歯科医師になった自分を想像して勉学に励んでください。

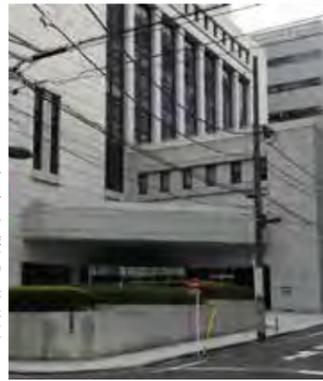
日本歯科医師会

『新進会員の皆様へ ~日本歯科医師会の立場から~』

日本歯科医師会は1903年(明治36年)11月に設立され、今年で120年の歴史を重ねます。初代会長は高山歯科医学院(現在の東京歯科大学)創立者の高山紀齋、4、5代会長は血脇守之助になります。このように日本歯科医師会の設立、運営には本学のレジエント達が深く関わっています。1948年には社団法人日本歯科医師会となり任意加入の団体となっています。さらに2013年の公益法人改革により、「公益社団法人 日本歯科医師会」へと移行しました。現在は26代の高橋英登先生により会務の執行がなされています。

日本歯科医師会の目的は、都道府県歯科医師会及び郡市区歯

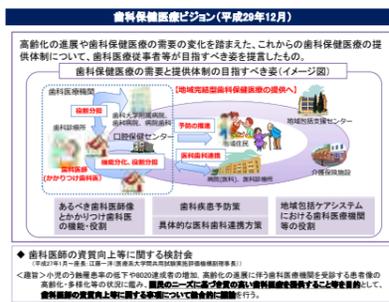
科医師会との連携のもと、歯科医学・歯科医療に携わる歯科医師を代表する公益団体として、医道の高揚、国民歯科医療の確立、公衆衛生・歯科保健の啓発、並びに歯科医学の進歩発達を図り、もって国民の健康と福祉を増進することとされています。



市ヶ谷 歯科医師会館



2040年を見据えた歯科ビジョン
(日本歯科医師会、2020年10月)



歯科医療ビジョン
(厚生労働省、2017年12月)

具体的には、国がそれぞれの地域特性に合わせてその構築を求めている、これからの地域保健の在り方「地域包括ケアシステム」がその中心となります。地域で暮らす高齢者や障害者を支えていくために、中学校区程度の範囲内に住居、生活支援、医療、介護、介護予防といった機能を充実させていく概念です。そして「地域包括ケアシステム」における歯科診療所の役割として、従来の外来歯科診療の他に、訪問歯科診療の充実、病院・医科診療所等との医療連携、居宅、介護施設等における多職種連携といった機能の充実などが求められています。

現在、日本歯科医師会の会員数は約63000人となっています。全国に約10万人の歯科医師のうち、およそ85%が歯科診療所の開設者か診療所の従事者です。こうしたことから、日本歯科医師会は開業歯科医が主体の団体であり、国と直接交渉できる歯科関係の唯一の職能団体として、全国の歯科医師の声を国に届ける機能を有しています。

新進会員の皆様におかれましては、やがてご自身の歯科診療所を開設されることになるでしょう。そうなると、社会保険診療報酬は生活の糧として、最大の関心事になっていくことと思います。社会保険点数の改定が概ね2年に1回あることはご存知だと思いますが、この国では一体、誰がこの保険点数を決めているのか? また果たして適切な評価がなされているのか? きっと、様々な疑問が湧いてくることだと思います。日本歯科医師会は、日本歯科医学、日本歯科医師連盟と共に連携しながら社会保険点数改定に臨んでいます。特に、全国7ブロックから選ばれた社会保険委員会をはじめ、様々な委員会の先生から歯科医療現場の声を拾い、厚生労働大臣の諮問機関である中央社会保険医療協議会(中医協)等色々な協議会で発言し、現場の声が社会保険の点数に反映できるように努力しています。

若い先生達からは、「歯科医師会は一切何をしている団体なのかよくわからない?」とか「自分にはあまり関係の無い団体だし、加入しなくても開業はできるから、わざわざ高い会費を支払ってもメリットがないよね。」といった声をよく耳にします。果たして、本当にそうなのでしょうか?

歯科医師法 第一条には、「歯科医師は、歯科医療及び保健指導を掌ることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする」とあります。地域における歯科医療のみならず、公衆衛生活動に積極的に参加することは歯科医師としての責務と言えるのではないのでしょうか。それぞれの地域で実施されている1.6歳児歯科健康診査、3歳児歯科健康診査、妊産婦歯科健診、歯周疾患検診、後期高齢者歯科健診といった歯科健診事業、休日応急診療、小中学校・高等学校の学校歯科医による学校歯科保健活動へ参加をするためには、まずは地域の歯科医師会への入会が必要です。しかも、こうした公的な歯科保健活動には必ず給与等が歯科医師会を通じて支払われています。

また近年は、対応が難しい患者さんとのトラブル、医療訴訟等が増えています。こうした問題は先生が一人で抱えていても良い結果は得られません。歯科医師会の会員であれば、地域の歯科医師会や都道府県歯科医師会に相談することができるようになります。また、大規模災害時には、被災した住民に加え、会員診療所の被災状況に応じて義援金を支払うなど、

さて、少子高齢化が進む日本社会では2025年に団塊の世代が全て後期高齢者となり、今後も益々高齢者が増えていきますが、2040年からは日本の総人口が減少し始めます。日本歯科医師会では「超高齢社会において歯科医療の果たすべき新しい役割と責任」について協議を重ね、歯科医療と口腔健康管理が「健康寿命の延伸」に貢献できるというコンセプトから、20年後の2040年を見据えた歯科医療のあるべき姿を描いた「2040年を見据えた歯科ビジョン」を2020年10月に発表し、その具体的な取り組みを実行しているところです。

それでは、今後の歯科医療提供体制を国はどのように構築しようと考えているのでしょうか? その答えが平成29年12月発表の『歯科保健医療ビジョン』に描かれてい

施設・業務別にみた歯科医師数、医師数				
	歯科医師数(人)	構成割合 (%)	医師数(人)	構成割合 (%)
総数	105267		943275	
医療施設の従事者	101919	96.8	327444	95.4
病院的従事者	11662	11.1	220096	64.1
診療所の従事者	90257	85.7	107348	31.3
介護老人保健施設・介護医療院の従事者	37	0	3648	1.1
行政機関・産業医・保健衛生業務の従事者	368	0.3	4430	1.3
診療所の従事者	90257	85.7	107348	31.3

令和4(2022)年 医師・歯科医師・薬剤師統計の概況一部改定

歯科医師会には様々な機能により会員の先生を裏側から支えていくシステムが整っています。

新進会員の先生も多くは臨床研修期間を修了し大学から離れると、どうしても同窓会と距離を置いてしまう場合が多いようです。是非、地域の東京歯科大学同窓会支部に入会し、何でも相談してください。特に開業の際には周りの先生達の声を聞くことも大事だと思います。開業を斡旋する業者まかせでは、どうしても過度な設備投資になりやすくなり、経営の重荷になる傾向がみられます。

そして最後になりますが、地域の公衆衛生活動に参加し、歯科医師としての責務を全うするためにも、是非とも忘れずに地域の歯科医師会、都道府県歯科医師会、日本歯科医師会に入会していただければ幸いです。



日本歯科医師会
地域保健I担当
常務理事
山本 秀樹(S57卒)

【問い合わせ先TEL】(公・社)日本歯科医師会
会計・厚生会員課(厚生会員部門) TEL:03-3262-9323

ご存知ですか? 「学校歯科医」

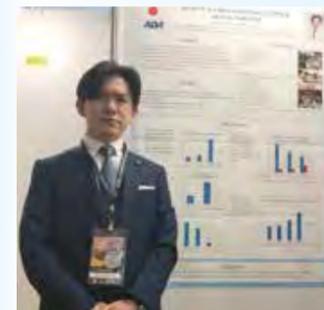
『新進会員の皆様へ ~日本学校歯科医会の立場から~』

皆さんも学生の頃、学校で歯の健診を受けたと思います。その健診を担当していた先生を『学校歯科医』と呼びます。いろいろな学校で学校歯科医が行う健診の項目、判断基準はどのように決めるのでしょうか? もちろんバラバラではいけませんよね。その**健診項目、判断基準を統一し、全国の学校歯科保健活動を統括**しているのが『日本学校歯科医会(日学歯)』です。

ところで『**歯科3団体**』を知っていますか? **日本歯科医師会・日本学校歯科医会・日本歯科医師連盟**です。日本歯科医師会は主に歯科医療関連を担い厚労省管轄であるのに対し、日本学校歯科医会は主に歯科保健関連を担い文科省管轄です。この2つの組織を政治面で支えているのが日本歯科医師連盟です。歯科3団体は密接に連携して歯科界発展のために活動しているので、歯科界に身を置く皆さんは必ず全てに加入されることをお勧めします。近年、日学歯の活動がDMFTの減少など日本の予防医学に寄与してきたことは大きく評価されています。学校歯科保健の**目的は子ども達の「生きる力」を育むこと**です。そのため、現在は**口腔機能発達不全症への対応や児童虐待の早期発見、食べ方の支援による食育の推進、スポーツマウスガードなどで怪我の防止をする安全教育の充実**など、様々な取り組みを実施しています。近い将来、『**学校歯科医インターン制度**』が導入されて学校歯科医の職務を実感出来ると思いますので、日学歯の情報に注目しておいてください。



(写真1)川本強(S44卒)前会長(現名誉会長)と受賞時の記念写真



(写真2)マレーシアで開催された学校歯科アジア会議での発表

私の学校歯科分野での歩みは、平成30年の全国学校歯科保健研究大会で発表し賞をいただいたことをきっかけに(写真1)、翌年にマレーシアで開催された学校歯科アジア会議で発表する機会をいただきました(写真2)。そのご縁もあって令和3年より日本学校歯科医会に委員として参加させていただき、広報委員、学術委員を経て令和7年より理事として活動しています。現在の主な仕事は、学校歯科健診のデジタル化に向けた取り組みと、口腔機能発達不全症を教育現場に



(写真3)2025年に開催された全国学校歯科保健研究大会の実行委員との写真

周知させるための普及活動の担当理事をしています。昨年、広島県で開催された全国学校歯科保健研究大会では主催者側として参加しました(写真3)。

皆さんが歯科医師となって立ち向かう主な疾患はう蝕と歯周病、そして機能不全です。しかし患者の心理として、本来は治療されなくてはいけない状態にもなりたくないはず。国民の真の利益のためにも、治療という仕事も大切ですが、**疾患の予防、リスクコントロール**という仕事もとても大切です。それが幼少期より実践可能な現場こそ**学校歯科**であると考え、私はやりがいを持って活動しています。その活動が身を結び、全国規模で子ども達の健全な成長発達に寄与できたと実感できた時、大きな喜びを感じます。

新進会員の皆様、日本の将来を担う子ども達のためにも是非学校歯科医になり、日学歯に入会してください。日学歯は、『**情報の共有**』と『**人材の育成**』、そして状況に応じた『**柔軟な施策**』で対応することを基本姿勢として歯科保健をさらに推進し、学校歯科医の皆様をサポートしていきたいと考えています。先生達の中にも、近い将来日学歯で活躍される方がいらっしゃることを願っています。

日本学校歯科医会理事 夫馬 吉啓(平成19年卒)



日本学校歯科医会発行の情報発信



日本学校歯科医会のホームページ
<https://www.nichigakushi.or.jp>



同期と一緒に（本人：左）

Q. 今の職場を選んだ理由は？

私は現在、東京歯科大学パーシャルデンチャー補綴学講座に所属しています。

国家試験勉強が本格的に始まった6年生のとき、最も難しく、そして最も面白いと感じたのが義歯、特にパーシャルデンチャーに関する問題でした。実家の歯科医院が義歯の診療に力を入れていることをよく父親から聞かされており、自然と「大学卒業後は補綴の勉強、特にパーシャルデンチャーの勉強をしたい」と思うようになりました。

また、令和6年歯科疾患実態調査によれば、70歳以上の方のうち30～50%がパーシャルデンチャーを装着していると報告されています。すでに超高齢社会にある日本において、パーシャルデンチャーの重要性と需要は、今後さらに高まっていくものと考えています。研修医になってからは、5年生時の病院実習とは異なり、実際に自ら患者さんの診療を行うようになりました。その際、義歯だけでなく、保存修復、エンド、ペリオ、口腔外科など今まで勉強してきたすべての知識と技術を活用して診療に臨ばねばならないと痛感しました。そのため研修医の段階では他の講座を選ぶことも考え、悩んだ時期がありましたが、最終的には「まずは補綴診療において絶対的な自信をつけ、補綴を基盤とした知識を深め、診療を行うことに専念しよう」と決意しました。

現在は大学院生として研究を主にしながら、診療や学生教育にも携わっています。慌ただしい毎日ではありますが、非常に充実した日々を過ごしています。

Q. 歯科医となった生活はどうか？

研修医を終えて講座に入局して半年が経ちました。春先は大学院行事の準備に追われ、遅くまで大学に残って作業をする日々を送っていました。7月頃からは患者の配当が始まり、診療にも本格的に携わるようになりました。診療の流れは教科書で理解していたつもりでも、実際に自分で手順通りに診療を行うとなると、不安や焦りを感じることも少なくありません。また、初めて経験する場面では、自分自身で判断し、正しい選択を求められることもあります。治療計画を立てるにしても、特に義歯診療において「絶対の正解」が存在しない場合も多く、講義などで学んだ知識を活用しつつ、分からないことは講座の先生方に指導を仰ぎ、診療後に内容を振り返りながら「そこで得たことを次の診療にどう生かすか」を日々模索しています。予習や準備を欠かさず行うことで、少しずつ自分のできることが増え、歯科医師としての成長を日々実感しながら生活しています。

先輩から卒業生の皆さんへ...

濱田 崇人

129期生・令和6年卒

東京歯科大学卒業後、
東京歯科大学水道橋病院で研修修了
現在、パーシャルデンチャー補綴学講座在籍

Q. 国家試験対策でやったこと、やればよかったことは？

国家試験は大学生活の最後に待ち受ける大きな試験であり、これからの人生を左右する節目でもあります。私は病院実習を行う5年生までは、あまり真面目な学生ではなく、テスト前になってようやく勉強を始め、テスト期間は寝不足で乗り切るとなタイプでした。ところが6年生になり、勉強班長という立場を任せてもらったことで状況が変わりました。班員に教えながら、時には教えてもらいながら勉強をする日々が始まりました。最初の総合学力試験の結果に納得がいかず、7月頃から気を引き締めて、毎日22時近くまで学校に残って勉強していました。正直、とても面倒で「やりたくない、逃げたい」と思うこともありましたが、「この1年だけ本気で勉強すれば、きっと将来ためになる」と考えることで、少しずつ慣れて、苦にならずに毎日を過ごせるようになった気がします。

Q. 後輩に伝えたいことは？

私は大学時代、「親が歯科医師だから」という理由で、なんとなく実家の歯科医院を継ぐつもりで過ごしていました。しかし、臨床研修医としての1年間と、講座に入局した半年間で、その考えは大きく変わりました。今は「自分がどこまでやれるのか」「どうすれば洗練された一人前の歯科医師に成長できるのか」と真剣に考えるようになってきました。卒業し、歯科医師になってからも、学ぶべきこと、勉強しなければいけないことは山ほどあります。そして、これまでと大きく違うのは、それを講義のように受動的に学ぶのではなく、自分から能動的に学び取らなければならないという点です。歯科医師になることはゴールではなく、ようやくスタートラインに立ったのだと痛感しています。

今、6年生の皆さんはマッチングや研修先、将来の進路、そして何より国家試験のことで大変悩んでいる時期だと思います。でも焦らずに、まずは目の前にある授業のレジュメや問題集をコツコツ解き、しっかり理解してください。勉強のやり方に近道はないと思います。自分の勉強スタイルを確立させ、何を優先すべきか見極めることが大切です。国家試験が終われば、春休みや卒業旅行といった楽しい時間が待っています。休憩もしっかり取りながら、体調管理に気をつけて過ごしてください。応援しています。

先輩から卒業生の皆さんへ...

渡邊 圭

129期生・令和6年卒

東京歯科大学卒業後、
慶應義塾大学病院 歯科・口腔外科にて研修中

Q. 職場紹介と選んだ理由は？

現在、私は慶應義塾大学病院 歯科・口腔外科に所属しています。当科では、歯周病、顎関節疾患、顔面痛、口腔粘膜疾患、インプラント・補綴外来などの特殊外来を設け、各分野の専門医が中心となって診療を行っています。また、口腔がんや顎口腔腫瘍、顎変形症、嚢胞、外傷、炎症といった口腔外科手術に加え、病変切除後の顎骨再建や顎口腔インプラント治療など、全身疾患を有する患者さま一人ひとりの状態に応じた治療を提供しています。私は、こうした幅広い疾患と多様な症例に触れられる環境に強く惹かれ、この職場を選びました。日々の診療の中で新しい知識や技術に触れ、多くの症例を経験できることは、非常に大きな学びとなっています。先輩方からの指導を受けながら一歩ずつ成長できることに感謝し、今後も経験を積んでいきたいと考えています。

Q. 歯科医師となって感じる楽しさや困難は？

歯科医師として臨床に立つようになって強く感じるのは、学生時代に座学で学んで理解したつもりになっていたことと、実際に自分の手で行うこととの大きなギャップです。頭の中では点と点がつながっているようでも、実際の診療ではその線が途切れてしまい、知識と臨床の間にある“微妙なニュアンス”の壁にぶつかることが少なくありません。器具の使い方一つ、麻酔の効かせ方、さらには患者さんへの説明の仕方に至るまで、その難しさを日々痛感しています。しかし、その壁の一つ越えられたときの達成感は格別です。最初はうまくいかなかった処置ができるようになった瞬間、また患者さんに「楽になった」と感謝していただける瞬間は、この仕事を選んでよかったと心から思える時間です。そして理解が少しずつ深まるごとに、同じ症例を見ても以前とは異なる景色が広がっていきます。治療の選択肢が増え、自分の視野が広がる感覚はとても新鮮で、学ぶ意欲をかき立ててくれます。困難と成長は常に隣り合わせですが、その積み重ねこそが臨床の醍醐味であり、日々のやりがいになっています。これからも挑戦を続けることで、確実に前へ進んでいきたいと思っています。



慶應義塾大学病院入局時、同期と一緒に（本人：後列右から2番目）

Q. 学生時代にやっておいてよかったこと、後輩に伝えたいことは？

学生時代を振り返って「やっておいてよかった」と思うことの一つは、友人同士で教え合ったり質問し合ったりする勉強方法です。人に説明することで自分の理解も深まり、知識が定着しやすくなります。この経験は、今実際に患者さんに説明をするときにとても役立っています。専門的な内容をかみ砕いてわかりやすく伝えることは簡単ではありませんが、学生時代に培ったアウトプットの習慣が、その基礎になっていると感じます。また、部活動や学外の活動に参加していたこともよい経験でした。学業以外の場で先輩や後輩、同期と関わることで、横のつながりや縦のつながりが自然と生まれます。歯科医師になってからは、学会や勉強会などで人とのつながりが非常に大きな財産になります。同じ職場の中だけでは得られない刺激や情報をもらえることも多く、困ったときに相談できる仲間がいることは大きな心の支えにもなります。歯科医師になってからは毎日が試行錯誤の連続ですが、できなかったことが少しずつできるようになったり、患者さんに喜んでもらえることが「頑張ってたかったな」と思えます。まだまだ失敗も多いですが、焦らず一歩ずつ進んでいけたらと思っています。これからも学びながら楽しく続けていきたいです。

これから学生生活を送る後輩の皆さんには、ぜひ勉強だけでなく人とのつながりを意識して過ごしてほしいと思います。積極的に学び、積極的に人と関わることで、将来きっと大きな力になるはずです。

情報の共有化

◎同窓会会報を
年4回
発行します



◎同窓会 HP・Instagram・Facebookにて各種情報を共有しています。



Instagram



Facebook



同窓会
ホームページ



<https://www.tdc-alumni.jp>

同窓会 Web ページの
トップ画面

同窓会ホームページでは、同窓会の活動内容や大学の最新情報も掲載しています。
また、会員ページもあり同窓会員向けの情報が満載です。ぜひアクセスしてみてください。
ログインするためには、ID とパスワードが必要です。

(9へく千円、随時更新・云報に掲載)

同窓会の交流



新進会員のつどい

新進会員のつどいでは、今後の素晴らしい歯科医師人生の道標になるような講演会、懇親会を企画しています。

同窓の先輩方の講演や対話による気づきと助言から、この会が若手会員の明日への確実な一歩を踏み出す機会となるはずで

す。令和8年度も、新進会員の企画による会を開催予定です。

未来の歯科界を担う若手会員が、世代・地域を越えた同窓の交流を通じ、将来に向かって希望に満ちた道を進めるように、ニーズにあった支援を行っていきます。

是非、ご参加ください！



会員活動推進委員会

本委員会は全国の会員がより同窓会活動に参加しやすくするために、各支部の現状を把握し、今後の方向性を検討していきます。

各支部の先生方と連携して情報を交換し、全国の先生方にそれらの情報を提供したいと考えています。

また、「会員活動推進委員会」としての企画を立案し、同窓会会員が同窓会をより身近なものに感じられるようにしたいと考えております。



同窓会の交流

全国ゴルフ大会



開催予定: 令和8年9月10日(木) (よみうりゴルフ倶楽部(東京都)) 「参加申し込み詳細は、同窓会報6月号に掲載されます」

同窓会の本部・支部の活動/クラス会開催



多くの支部では、学術講演会、保険講習会を開催して、臨床や経営など様々な情報交換をしたり、会員・家族レクリエーションなどを開催し、会員の親睦を深めています。また、同窓会では、卒後10年以内で初めてクラス会を開催する学年に支援を行っています。

岡山県支部からのメッセージ

ご卒業おめでとうございます！

これまで勉強に励んでいた毎日に一区切りをつけ、一息ついて、これからの歯科医師としての日々に、ワクワクドキドキしているところでしょうか？

私達は東京歯科大学同窓会岡山県支部です。東京歯科大学の創設者である高山紀齋先生が岡山県ご出身ということもあり、今でも中国地方の県としては、学生数も多いと思います。また高山紀齋先生は日本歯科医師会の初代会長でもあるため、岡山県歯科医師会館には胸像が設置されています。

さて、みなさんは同窓会の活動にどんなイメージをお持ちでしょうか。

東京歯科大学ではひとつのつながり、仲間同士支え合う精神が根付いていますよね。

同窓会もまさにその精神で活動しています。年齢に関係なく仲間として、学術的な話はもちろん、いまさら聞けない聞きづらい話、分かりづらい保険請求のこと等々、何でも相談・聞くことができます。共に研鑽を積む仲間なのです。“ひとつのつながり”は宝です。きっとあなたの人生のお役に立てるはずですよ。

最後に皆さんにお願いがあります。卒業後は大学に残る人、大学院に進む人、実家に帰る人、他大学に行く人、開業医へ勤務する人など、それぞれ違う道歩んでいきます。進路は異なっても同期の友との集まり、またクラブや講座等々の集まりに参加すると思いますが、その中には是非とも地方支部同窓会の集まりを加えてください。皆さんのお越しをお待ちしています！待ちよーるよー。

東京歯科大学同窓会岡山県支部 赤澤 勇人





チーム遠征先でのサポートにて、医局先輩と一緒に（本人：左）

Q. スポーツ歯学研究室を選んだ理由と研究室の紹介

私は現在卒後2年目で、本年度より口腔健康科学講座・スポーツ歯学研究室の大学院生として入局しました。私が所属するスポーツ歯学研究室は、1998年にスポーツ歯科医学の本格的な研究と臨床活動を行うべく、世界で初めて東京歯科大学に設立されました。食事や体力づくりを通して歯と口腔の健康管理を目的とし、スポーツ時における顎口腔領域の安全対策とその指導、さらには顎口腔機能と運動能力との関係解明などに取り組んでいます。

研修後の進路については直前の1月まで悩んでいました。医院見学や先輩方の話を聞いても、「開業医か大学か」「大学なら何科か」「大学院か専修科生か」など、なかなか決められずにいました。そのなかで、最終的に決め手となったのは、「自分が一番探求したい分野はどこか?」という視点でした。十数件の医院を見学して感じたのは、「大学に残ったかどうか」や「専攻分野が何か」よりも、「自分がやってみたいことを突き詰めた先に今の一般歯科治療や専門分野がある」ということでした。そこで、自分が一番ワクワクすることを改めて考えた結果、スポーツ歯科にたどり着きました。私は小学生の頃から野球をしており、目線の位置が少し変わっただけで体の使い方が変化しパフォーマンスに影響するなどの微細な動きが重要である点に、スポーツの楽しさと難しさを感じていました。そんな中、かみ合わせも姿勢や筋肉の状態によって変化する繊細なものであると知り、少しでも解明したいと思うようになりました。専門を極めるなら研究経験があった方がよいという考えはありましたが、研究ばかりで一般歯科治療ができないのではないかと不安もありました。しかし、先輩方が幅広く一般治療を行っている姿をみて、大学院生としての入局を決めました。

研究室内での活動として、トップアスリートから一般のスポーツ愛好家、さらには身体的ハンディキャップを抱えながら競技に取り組むアスリートまで、競技レベルを問わず、幅広い対象へスポーツ歯科的サポートを行っています。活動は外来診療にとどまらず、競技会場やトレーニング環境に赴き、現場でのマウスガード適合・調整、外傷予防管理、口腔保健指導なども実施しています。また、大学や高校の体育会系チームに対しても、定期的に口腔健康教育やマウスガード提供を行い、競技パフォーマンスの維持・向上を支援しています。さらに、コーチ、アスレティックトレーナー、チームドクターなど多職種との連携を通じて、口腔から全身に至る包括的サポート体制を学ぶ機会も多く、日々新たな知見を得ながら実践を重ねています。また、閉塞性睡眠

先輩から卒業生の皆さんへ...

番園 紘之

129期生・令和6年卒

東京歯科大学卒業後、
東京歯科大学市川総合病院にて研修修了
現在、口腔健康科学講座・
スポーツ歯学研究室在籍

時無呼吸症や睡眠時ブラキシズムなどの睡眠関連歯科疾患に対する診療にも取り組んでおり、睡眠歯科医学的観点から口腔内装置療法や咬合管理を行っています。さらに、これらの疾患に関連する病態生理や治療効果の評価に関する研究にも従事しており、臨床と研究の両面から睡眠と口腔機能の関連性解明を目指しています。

Q. 歯科医となった生活はどうか?

スポーツ歯科の活動では、右も左も分からない段階から多くの現場に行かせていただき、貴重な経験を積ませていただいています。また、チームへのサポートや勉強会などで、チームスタッフや理学療法士など歯科医師以外の方と連携をとる機会が多いことも新鮮です。スポーツ選手の中には歯や口腔に対する関心が低く、若くして複数の喪失歯を持つ選手がいます。そのような人たちに対してもスポーツを通し、歯科に関心を持つきっかけを提供できると感じています。一方で、やっと歯科医師になれたものの、できることはまだ限られており「早く一人前になりたい」というのが本音です。ただ、焦っても仕方がないので、目の前のことに一つひとつ丁寧に取り組むことで、次の道も自然と見えてくると考えています。学生時代から現在まで、多くの方々に支えられ、助けていただきました。この場を借りて心から感謝を申し上げるとともに、これまで教えていただいたことを日々の診療へ活かし、患者さんへ貢献していきます。

少しでもスポーツ歯科に興味がある人は、ぜひ話しかけていただくか、連絡してみてください! スポーツの経験は関係ありません! 見学もお待ちしております。

Q. 6年生へ伝えたいことは?

入学時から目標と言われてきた“国家試験”を目前に、不安や緊張が抱えきれないくらい大きくなっている人もいれば、やっと勉強から解放されると試験が待ち遠しい人もいるかもしれませんが、どの先生方も先輩も、皆さんの卒業試験・国家試験合格を本気で応援しています! あと少しです。自分が思い描く歯科医師になった未来を想像し、持てる力を最大限に発揮してください。

先輩から卒業生の皆さんへ...

山口 仁

129期生・令和6年卒

東京歯科大学卒業後、
東京歯科大学水道橋病院にて研修修了
現在、武蔵小山歯医者勤務



山口 仁先生

Q. 今の職場を選んだ理由は?

私は現在、品川区の歯科医院にて日々診療にあたっています。保険と自費の比率は半々、駅周辺の再開発もありましたが、下町の雰囲気も残っているため患者さんの層も様々です。

そんな当院に入職した理由は、研修医の頃から様々な症例を経験させてもらったからです。私は研修後半から当院にお世話になっていますが、研修医の頃から常勤医と変わらない扱いで、一枠30分アポ、オーバーすれば怒られましたし、壁にもたくさんぶつかりました。そのたびにアドバイスをいただく。変わって治療をしてもらうのではなく、あくまでも自分で解決する能力を身に着ける。これが研修医の頃からできたことはすごく良い経験だったと感じています。模型練習もたくさん行いましたが、やはりひとつとして同じ症例、同じ口腔内はありませんので、こればかりは、実際に臨床での経験数を増やしていくことで、だんだんと臨機応変に対処できる治療スタイルが確立されていくのではないかと思います。

Q. 後輩に伝えたいこと?

未熟者ですので、わからないことも多々ありますが、半年ほど働いてみて、治療の質はさることながら「時間感覚」と「保険ルール」は一般歯科医において極めて重要なことだと思います。これら二つは、学生の頃は学びませんが、臨床においてはとても大事なことです。

まず一つ目の「時間感覚」に関してですが、研修医の頃は30分に収まりきらず、患者さん含めいろいろな方に迷惑ばかりかけてしまいました。カルテ入力もろくにできず毎日メモを書いてはパソコン横に置いて入力をするという日々が続いた研修医期間でした。よく、最初の数年がその後の歯科医師人生を決めると聞きますが、あながち間違いではないと思います。特に時間感覚に関しては、最初の数年での感覚がそれ以降の歯科医師人生の時間軸になっていくのではないかと考えています。例えば、支台歯形成の場合、コアセット（コア形成）、支台歯形成に○分、印象採得が○分、残り時間をクリーニングにあてて、その間にTEC修正、カルテ入力をしてクリーニングが終わったら最後にTECを付けるなど、大まかな時間配分が自分の中にできたらうえて、それらを会計の時間から逆算するといったような時間管理がとても大事になってきます。なるべく処置の時間を短縮し、その分クリーニング時間に回した方が患者さんからしても気持ちが良いですし、次回以降の治療も良い気持ちで来てもらえます。他にも他

愛もない雑談をして互いの信頼関係構築に回したりと、時間を短縮することで得られるものはたくさんあります。ただもちろんですが、時間短縮で治療の質が落ちてしまうのは本末転倒です。時間短縮のために何かをサボると必ず自分に返ってきます。これも経験しました。必ず自分に返ってきます。

また、もう一つの「保険ルール」に関してですが、保険医として働くうえで一生保険ルールのもと治療を行っていきます。先に述べたように私自身、1年目ですのでわからないことばかりではありますが、当院の院長が審査委員を行っていたこともあり厳しく教えていただいています。そのおかげもあり、月当たりの平均点数について考えながら診療を行うことや保険ルール上の禁止行為はもちろん、返戻が起こりうるような算定は行わないよう日々心掛けています。これもまた一般歯科医として働くにおいて重要になりますので、なるべく早いころから保険ルールも視野に入れた診療を行うことが大事だと思います。

最後に

ここまでつらつらと偉そうに語ってきましたが、これからの進路選択で迷われている皆さんには「一般歯科に進んだいちドクターの意見」として読んでいただけたら幸いです。

上記のことがすべてではありませんし、たくさん先輩ドクターの意見を聞いて、その中で取捨選択を行い、一番刺さったものを取り入れて、その道に進んで行けばいいと思います。

東歯を卒業した能力とメンタルがあれば、数十年後振り返ってみてあの時の選択は失敗したと思うことはそうそう無いのではないかと考えています。私はそう信じています。

ただ一つ後悔していることといえば、5年生と研修医最初の頃、大学病院に勤務されている先生方のテクニクをもっと見ておけば良かったなと思います。当時はケース集め、試験の対策のために見学、アシストを行っていました。学生からしたらその点もすごく大事なのですが、臨床医、特に一般歯科医になった今、各所に所属されているそれぞれの道のプロフェッショナルな先生方の手際はもう見られません。そもそも当時と今では見る目線が変わると思いますので、今だから言えるところではあるのですが、研修医の頃みたいに1カ月1診療科でもう一度拝見したいなと思います。

皆さんも後悔しないように、5年生と研修医時代を過ごしてください。

同窓会ネットワーク

若手支援ネットワーク

新年度から、新たに歯科医としての一歩を踏み出す先生、研修期間を終了しさらにステップアップを目指す先生、大学院を修了し専門分野で臨床に励む先生、そろそろ開業を考えている先生など、其々の新しい環境でご活躍のことと思います。同窓会本部では、そのような若手の先生方からの相談や質問に対応できるよう、全国の支部、連合会とネットワークをつくりました。「先輩の診療を見学したいけど、どこに行けば良いのかなあ?」「出身地での開業を考えているけど、相談できる先輩がいない・・・」「歯科医師会ってどんな組織なのかな?」「同窓の先生方から直接生の声を聞いて勉強したい」「そろそろ結婚を考えているけど、子育てをしながら歯科医は出来るの?」「クラス会を開催したいけど、どうしたら良いの?」などなど・・・若い先生方の相談や質問の対応をすべく同窓会本部が同窓会員同士の橋渡しをします。昨今のIT 社会では、ネットから情報が簡単に検索できるようになりましたが、ネットの情報からだけでは解らないことを、現場の諸先輩と話してみませんか!

ぜひ、同窓会 HP にアクセスのうえ、Mail Box に必要事項を記載して送信してください! お待ちしております。(右図参照)

支援ケース対応例

支援ケース1》》》

[研修医より「来年度以降の就職先を探している」という相談について]
⇒見学先の紹介
今後の進路について、地元、現住所、希望する専門分野(補綴、高齢者歯科など)に応じた診療所の見学を紹介

支援ケース2》》》

[初めてのクラス会開催について]
⇒会則作成、会費支援、連絡先確認、同窓会説明などの支援(卒後5年目、10年目)

支援ケース3》》》

[県人会の開催]
⇒地元の支部と交流をして、研修医が県人会へ参加

●「同窓会通信掲示板」を設置しています!

同窓会では、会員の皆様とのコミュニケーションを円滑に促進するため「同窓会通信掲示板」を設置しております。

同期会開催について、災害被災状況、研修会そして就職情報などなど・・・

会員の皆様から直接情報を発信していただける場所にしたと考えております。

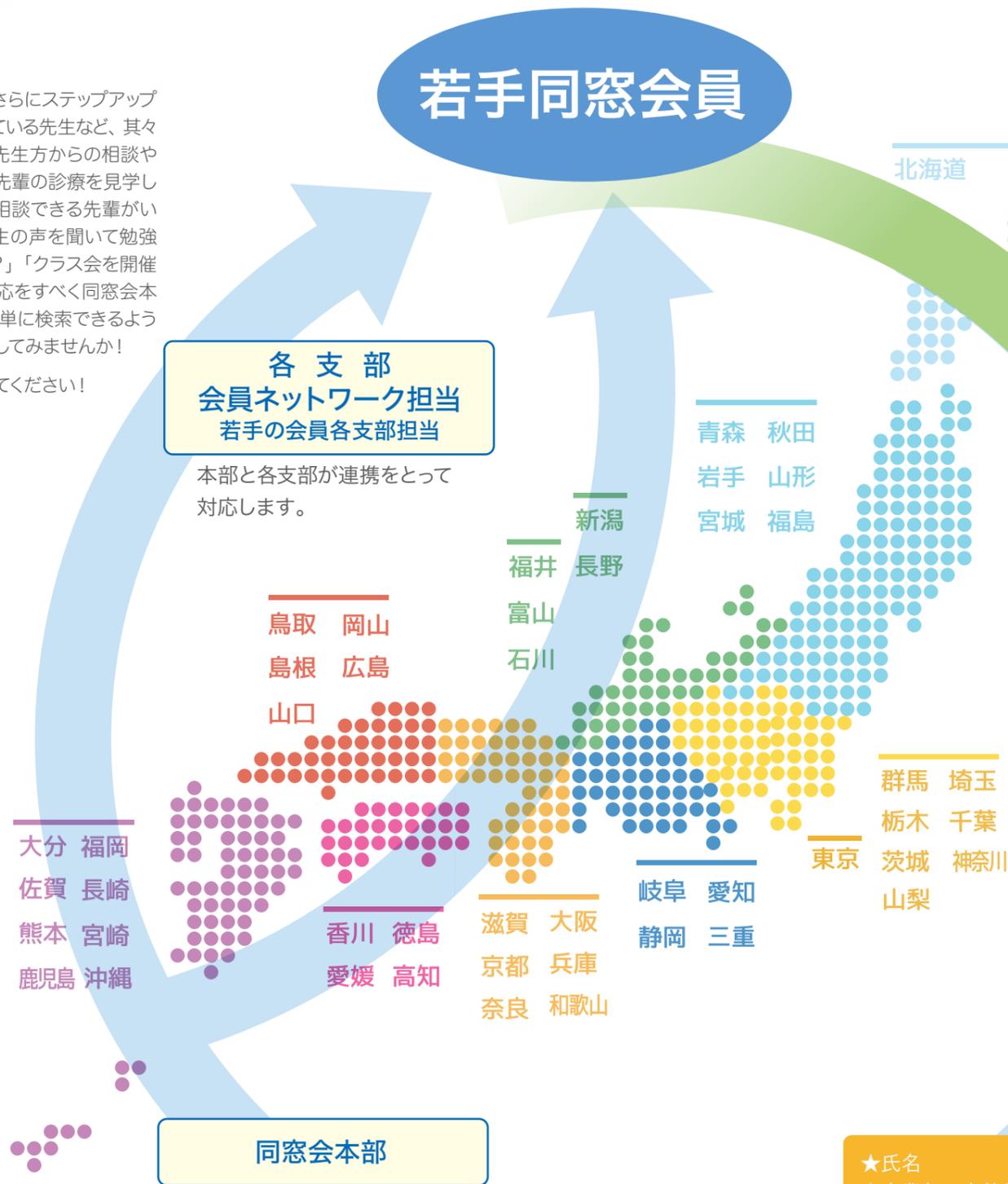
是非、以下へアクセスしていただき、ご利用いただければと思います。

<https://tdc-alumni.jp/bbs/>



*閲覧は会員ページから。
ご投稿には、掲示板専用ユーザー登録をお願いしておりますので、よろしくお申し込み申し上げます。

若手同窓会員



**各支部
会員ネットワーク担当
若手の会員各支部担当**

本部と各支部が連携をとって対応します。

同窓会本部

相談・質問内容を確認し、適切な関係部署において対応します。

- ★氏名
- ★卒業年・在籍学年
- ★連絡先・方法
- ★質問・相談内容

若手ネットワーク MailBox のフォームに必要事項を記入して送信してください。

質問例

- ★関連病院・診療所見学について
- ★開業について
- ★歯科医師会入会について
- ★各支部・各地域の事業について

まず、同窓会 HP にアクセスします。

東京歯科大学同窓会 HP
<https://www.tdc-alumni.jp>
「MAIL BOX」をクリック!



QRコードからアクセス!!



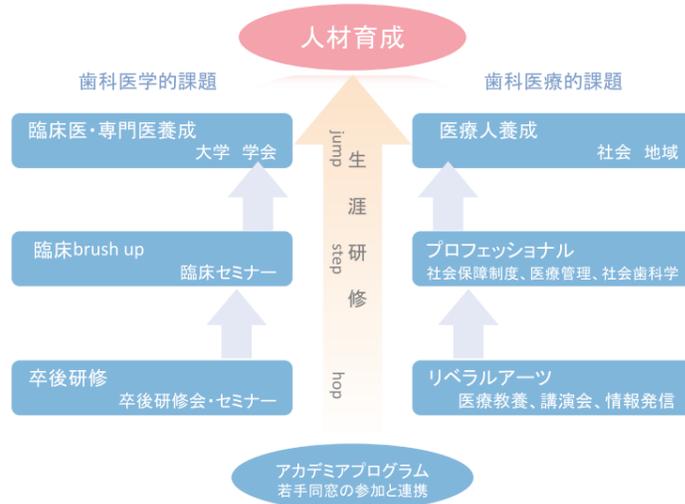
トップページの「MAIL BOX ご意見・ご質問」をクリックし、「若手ネットワーク MailBox」へ入ります。



“TDC Academia”

アカデミアの理念

『歯科医師たる前に人間たれ』の建学の精神を基本に、人間味豊かで、社会性のある人材育成をめざす総合的な生涯研修の場“アカデミア”をつくり、臨床から地域保健、医事に通じた国手となるための一貫した理念に基づいた事業展開をめざすものです。全国の同窓が次代を担う後輩たちへの支援や連携の輪となることを期待しています。



同窓会創立120周年を機に新たな同窓会の一つの役割としてアカデミア構想をスタートさせました。これは同窓の生涯研修のために集える場であり、そこには研修事業もあり、歯科医師像の議論もあり、学術や医療制度情報の交換・提供もあり、先輩後輩の交流もあり、全国離れた地でもいろいろ新しい形に発展していくことを願った構想で、究極するところ130年の歴史で培われた社会性をもった歯科医の育成そして歯科界の発展を目指したものです。

- 東京歯科大学同窓会は、会員相互の親睦並びに福祉の増進を図るとともに、母校の発展に寄与することを目的としています。そのために、同窓会員に対する学術的支援、困ったときの支援、各種情報の提供、さらに大学への協力などを行っております。
- 本学の学生も「**準会員**」となり（会費等はなし）、また卒業5年目までは「**新進会員**」として、さらに卒業10年目までは会費等も軽減されます。最近は特に卒業直後の若手会員の支援に力を入れております。

世代・地域を超えた同窓の交流	(事業推進部、広報部)
ネットワークやいろいろな企画を通して先輩後輩の交流をひろげます	
情報の共有化	(総務・厚生部、広報部)
全国どこでも、だれでもが同じ恩恵を受けられるような情報化を目指します	
学術事業	(事業推進部)
歯科医学的課題 医学の知識や技術など純粋な学問としての研修	
歯科医療的課題 社会を意識した歯科医療人を目指した研修	
制度のプロフェッショナルづくり	(渉外部)
大きな視点で考える人材、動かしていける人材を育てます	

～TDCアカデミア構想～

TDCアカデミアは「臨床セミナー」「卒後研修」「医療教養」の3つの柱から成り立っております。

- 「臨床セミナー」を通じて個々の技術や知識を習得する。
- 「卒後研修」にてどのような患者にどのように活かしていくかを疑似体験し臨床の幅を広げる。
- 「医療教養」では患者さんや社会から望まれる歯科医師像を構築する。

そしてそれらを『生涯研修』として先生方にお届けします。ハイブリッド開催により「対面受講で学習効果を上げる」「Web受講で気軽に参加できる」を選べることも特徴です。



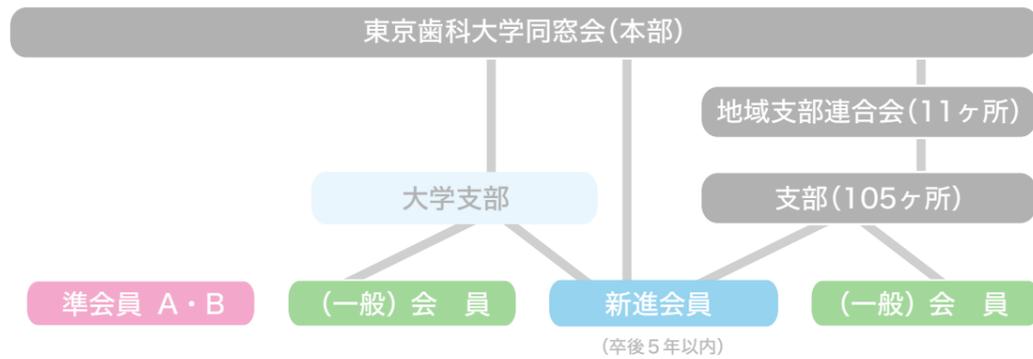
臨床セミナー・・・毎年さまざまな実習型と聴講型のセミナーを企画しています。基本手技から専門的知識・技術、先進医療などを習得でき、臨床レベルの向上につながります。ベーシックハンズオンセミナーでは支台歯形成、テンポラリークラウンの作成、MTMのワイヤーベンディング、豚顎を用いて抜歯・FOPなどを一度に学ぶことができ非常に好評です。皆さまのご参加お待ちしております！

卒後研修・・・症例検討型の勉強会です。さまざまな症例を疑似体験すること、自ら発表するスキルが学べます。その中で情報収集と記録、診査診断、治療計画、実際の治療方法、予後予測など、生涯研修の基本を身につけることを目的としています。日常臨床の基礎を学び、臨床対応の選択肢を広げることができます。

医療教養・・・『歯科医師たる前に人間たれ』社会性や歯科医療倫理観を高めることを目的としています。患者さんや社会から望まれる歯科医師像をめざすことを目標とし歯科医療的課題について共に研鑽することもできます。



組 織



同窓会には、約9,000人の会員がいて、全国各地および大学に合計106支部がおかれ、同窓会員は原則いずれかの支部に所属することになります。

新進会員については、所属する支部が決まるまでの期間は本部直属扱いとなります。

また、全国11の地域別に地域支部連合会がおかれ、地域内の支部の連携を密にして、同窓会の発展に関する協力機関となっています。さらに、同窓会本部には、会長、副会長、専務理事、理事、監事が置かれ会務を執行しています。このように、支部、地域支部連合会、同窓会本部と3層でそれぞれ活動しながらも、常に連携のとれた同窓会活動を行っています。

◆ 同窓会本部 役員構成

- 会 長
- 副 会 長(5名)
- 専務理事
- 常任理事(8名)
- 理 事(11名・地域選出)
- 監 事(3名・うち常任監事1名)
- 顧 問(2名)

◆ 同窓会本部 委員会構成

①常置委員会

- 【総務・厚生部】 総務厚生委員会
ゴルフ大会委員会
- 【渉外部】 渉外委員会
- 【広報部】 広報委員会(会報・HP・ネットワーク)
- 【事業推進部】 学術委員会(卒後研修)
(臨床セミナー)
(医療教養)
新進会員のつどい実行委員会
会員活動推進委員会

②特別委員会

【選挙管理委員会】

③地域支部連合会

- 北海道地域支部連合会 【10支部】
- 東北地域支部連合会 【6支部】
- 関東地域支部連合会 【16支部】
- 東京地域支部連合会 【38支部】
- 信越地域支部連合会 【5支部】
- 東海地域支部連合会 【4支部】
- 北陸地域支部連合会 【3支部】
- 近畿地域支部連合会 【6支部】
- 中国地域支部連合会 【5支部】
- 四国地域支部連合会 【4支部】
- 九州地域支部連合会 【8支部】

大学
大学支部

*各支部への連絡先は同窓会本部
(TEL 03-6261-6631)にお尋ねください。

- ◎ 東京歯科大学同窓会主催の各種セミナー、講演会等は、無料もしくは割引料金で受講できます。
- ◎ 新進会員のつどいは無料で参加できます。
(他大学同窓会主催のセミナー等にも無料で受講できるものがあります。)
- ◎ 支部、地域支部で開催される学術講演会、保険講習会に参加できます。
- ◎ 皆さんの生の声を支部長を通して本部に伝えることができます。
- ◎ 80歳、100歳を迎えられるとお祝い金が贈呈されます。
また、死亡時には弔慰金が支払われます(会費未納者には支払われません)。
- ◎ 年4回発行の会報で、同窓会、クラス会、大学の情報がわかります。
- ◎ 同窓会ホームページのメールBOXから質問、相談ができます。

【同窓会員のルール】

- ◎ 支部に所属します。
- ◎ 年度会費は、期日までに支払います。
- ◎ 住所、勤務地の変更等は、必ず届出ます。

【同窓会事務局からのお願い】

- ◎ 事務局は毎週土曜・日曜・祝日はお休みをいただいております。
なお、電話での対応は平日9:30~17:30とさせていただきます。ご協力お願いいたします。
- ◎ 事務局では、ご質問に対して正確を期すため、すぐにお返事ができない場合もあります。ご了承ください。

【会費】

- ◎ 同窓会会費 年額 20,000円
(卒後10年目までは年額 10,000円)
- ◎ 同窓会会費は各支部にお支払いください。
銀行口座からの自動引き落としも可能です。
- ◎ 「新進会員」は本部に直接お支払いください。
- ◎ 東京歯科大学の勤務・大学院生は、大学支部を通じてお支払いください。
なお、支部、地域支部連合会によっては、別途、支部会費、地域支部連合会費が必要な場合もあります。
詳しくは、各支部にお尋ねください。

【入会後の諸手続についてよくあるご質問】

- Q1) 新進会員です。近く転居します。手続は必要ですか。
住所、氏名等登録事項変更届を同窓会事務局に提出してください。
- Q2) 現在勤務医です。支部に所属していないので、支部に所属したいと思います。
手続方法を教えてください。
勤務地または居住地の支部に所属することになります。
支部長に連絡をしてください。
支部への連絡先が不明の場合、同窓会事務局にお問い合わせください。
- Q3) 勤務医です。新進会員の5年間が終わります。何か手続は必要ですか。
支部加入手続が必要となります。Q.2を参照してください。
(新進会員期間終了後は必ずいずれかの支部に所属します)
- Q4) 勤務医です。勤務する地域の支部に所属しています。今度、開業することになりました。
支部移動の手続方法を教えてください。
新しく開業する地域(または住居地)の支部長に連絡してください。
支部への連絡先が不明の場合、同窓会事務局にお問い合わせください。
- Q5) 現在、歯科の仕事から離れています。支部に所属が必要ですか。
離職等により、勤務地がなくなった場合でも、住居地の支部に所属します。
住居地の支部長に連絡してください。
支部への連絡先が不明の場合、同窓会事務局にお問い合わせください。

この同窓会案内は、本学第4学年 篠田英菜さん作成のデザインを基に作られています。

【デザインイメージ】

2025年の東歯祭は「彩」というテーマで開催されました。

新たなことに挑戦していく過程で互いに影響し合い、より豊かで多様な、一色では表せない、重なり合うからこそ生まれる鮮やかさを作り出していきたい、、、という思いが込められているそうです。

本学の永く受け継がれた伝統をさらに深め、同窓会創立130周年記念事業「つなげていこう未来へ」の思いこそが、私たちの思い描く「彩」です。

同窓会では、若い先生方のさらなる飛躍を支援していきます。

東京歯科大学同窓会 東京歯科大学同窓会事務局

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-9-18
〔水道橋校舎 別棟 6階〕

TEL:03-6261-6631
(9:30-17:30 土日祝休み)

FAX:03-3264-4859

<https://www.tdc-alumni.jp>

